

## 脳神経外科

診療科目：脳神経外科

診療科担当研修責任者名：藤井 幸彦（脳神経外科教授） 診療科連絡先担当者名：佐野 正和（脳神経外科総括医長）	連絡先：masa2188@icloud.com
新臨床研修医指導実績：16年度：0人。17年度：0人。18年度：1人。19年度：3人。20年度：3人。21年度：5人。22年度：3人。 23年度：1人。24年度：2人。25年度：1人。26年度：0人。27年度：0人。28年度：0人。29年度：1人。 30年度：2人。	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：5人以内
◇◇◇ 学会認定専門医数◇◇◇	
脳神経外科学会専門医17人、脳卒中学会専門医3人、てんかん学会専門医2人、神経内視鏡学会技術認定医4人、日本がん治療認定医3人、脳神経血管内治療学会専門医5人	
◇◇◇ 学会認定指導医数◇◇◇	
脳神経血管内治療学会指導医1人	
◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定◇◇◇	
脳神経外科学会認定施設、脳神経血管内治療学会認定施設、脳卒中学会認定施設、てんかん学会認定施設	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴等
昭和28年（1953年）に、日本で最初に脳神経外科学専門の講座として独立し、日本脳神経外科黎明期からの歴史を持つ伝統的な教室であるがゆえに、県内外に広がる関連病院として、救急救命治療や多数の脳外科手術をこなす基幹病院、新潟県内各地で神経疾患診療の重要な拠点病院を多数有し、多くの優れた人材を輩出している。一方、神経内科とともに、新潟大学脳研究所という基礎と臨床が一体となった研究組織に所属していることも特筆に値する。ヒト用7テスラMRI装置等を有する統合脳機能研究センターを始めとして、脳神経外科の診療、研究、教育を行う上で、世界屈指の恵まれた環境である。	当科は、神経疾患の中でもとりわけ脳腫瘍、脳血管障害、下垂体疾患、新生児・小児神経疾患、機能性疾患などを対象としており、高難度の手術治療を要する症例が多く、チームで一丸となって診療に取り組んでいる。研修ではこの臨床チームに属し、担当症例の主治医団の一員として治療計画や実際の手術に携わって貢うこととなる。加えて日々搬送されて来る神経救急疾患の対応も多く、具体的には脳塞栓急性期、クモ膜下出血、重症頭部外傷などの救急診療にあたっている。このような経験を通して、神経救急患者に冷静に対応できる実力や全身管理にまつわる知識を身につけることができるようになる。カンファレンスは術前検討会：外来新患症例検討会が週2回（月、水の夕方）、術後報告会が週2回（火、木の朝）、IVR検討会が週1回（水の朝）行われ、研究発表、抄読会などの勉強会が毎週水曜日の術前検討会後に行われており、臨床に必要な考え方を学ぶことができる。その他、新潟市内の関連病院において機能外科（てんかん外科など）や脊髄外科を研修することも可能である。当科は脳研究所に属し、統合脳機能研究センター、神経病理、神経内科、その他の神経基礎講座との横断的交流もあり、特に神経研究に興味のある諸君においては、研修期間中にさらに一步進んだ経験の機会を得ることも可能である。

## 皮膚科

診療科目：皮膚科一般、膠原病、接触アレルギー、脱毛症、皮膚悪性腫瘍、蕩疹、遺伝性皮膚疾患など

診療科担当研修責任者名：阿部理一郎（皮膚科教授） 診療科連絡先担当者名：藤川 大基（皮膚科総括医長）	連絡先：(電話) 025-227-2282；(Fax) 025-227-0783 (Email) fujikawa@med.niigata-u.ac.jp
新臨床研修医指導実績：16年度：3人。17年度：3人。18年度：2人。19年度：3人。20年度：3人。21年度：4人。22年度：2人。 23年度：5人。24年度：6人。25年度：7人。26年度：6人。27年度：5人。28年度：8人。29年度：7人。 30年度：13人。	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：3人以内
◇◇◇ 学会認定専門医数◇◇◇	
皮膚科専門医 9人	
◇◇◇ 学会認定指導医数◇◇◇	
皮膚科専門医 9人	
◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定◇◇◇	
日本皮膚科学会認定施設	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴等
新潟大学の前身である新潟医科大学時代からの伝統をもち、新潟県の皮膚科診療の中核を担っている。皮膚疾患全般を診療の対象とし、高次皮膚科診療施設として難治あるいは重症皮膚疾患患者を多数受け入れているほか、多岐にわたるサブスペシャリティを持ち、各種専門外来を設けている。膠原病外来ではエリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎の治療、接触皮膚炎外来ではパッチテストによる原因検索、脱毛症外来では円形脱毛症に対する局所免疫療法と遺伝性毛髪疾患の走査電顕および遺伝子検索による診断とサポート、腫瘍外来では皮膚腫瘍全般的治療、アトピー外来では治療に加え生活指導も行っている。当施設で皮膚科領域全体をカバーする研修が可能である。	卒後臨床研修では多彩な皮膚疾患の診療を理解するため、原則として午前中は新患外来および外来処置・手術室で研修を行い、希望により各種専門外来での研修や中央手術室での研修も行う。午後は病棟主治医グループの一員として研修を行う。膠原病、接触アレルギー、皮膚腫瘍を対象とする専門グループと、他疾患全般を対象とする一般グループから希望により選択でき、複数グループの研修も可能である。さらに症例検討会（週1回）で高度な臨床および皮膚病理組織診断の現場を体験できる。 専門研修では皮膚疾患全般に適切に対応できる診療能力を修得し、全人的医療の実践を目指す。新潟大学医歯学総合病院とその関連病院で研修し、6年目以降に日本皮膚科学会認定皮膚科専門医を取得した上で、サブスペシャリティに応じた各種指導専門医（現在、皮膚悪性腫瘍指導専門医と美容皮膚科・レーザー指導専門医があり、今後も多数導入予定あり）の取得を目指す。専門研修ならびに生涯教育のための充実した学術環境として、伝統ある日本皮膚科学会新潟地方会がある。大学院へ進学し皮膚科関連課題の研究による学位取得も可能であり、取得後の海外留学も盛んである（海外留学の希望は最優先させている）。卒後10年目以降は、大学病院で後輩の指導と研究を行い教員を目指すコースと、関連病院で指導医として研修医や若手皮膚科医の指導にあたるコースがある。